

2021年度 学校関係者評価報告書

評価対象期間 自2021年4月 1日
至2022年3月31日

評価基準日 2022年4月1日

学校法人栗岡学園

四条畷看護専門学校

《 学校関係者評価 評価委員 》

(敬称略：五十音順)

委員長 米澤 泰司
委員 大原 敏敬
委員 川原 勲
委員 酒井 真紀
委員 谷川 優香
委員 前原 園代
委員 宮野 博

《 評価項目の達成および取組状況 》

- 1 教育
- 2 施設・設備
- 3 学生サービス
- 4 教育面などでの特筆すべき取組

《 自己評価回答責任者 》

副校長・教務主任・事務主任

教育分野 (以下に点検・評価する教育分野の番号を○で囲んでください。)

1 リハビリ

2 看護

1 教育

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	学校関係者評価
1. カリキュラムは貴校の教育目標をどのように反映していますか	<ul style="list-style-type: none"> 看護に必要な知識・技術・態度を修得し社会に貢献できる看護師の育成に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 准看教育からスムーズに移行できるように、基礎教育から段階的なカリキュラムになっている。 教育目標、育成したい学生像に関して教務会で話し合い、共通認識を持ち教育に当たっている。 2年課程のため過密なカリキュラムであるが、少しずつ調整している。 	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラム改正に向けて話し合いを繰り返し、今後も会議を定期的に持ちカリキュラムの構築に向けて取り組む。 新カリキュラムに向け、重複科目は整理できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 准看護科から進学してくる学校である特徴を踏まえたカリキュラムになっている。 適切かつ良好に反映している カリキュラム全体を統括するスペシャリストの育成が大切だと思う。
2. カリキュラムに卒後の職場のニーズをどのように反映していますか	<ul style="list-style-type: none"> 実習先の病院指導者や卒業生から職場のニーズを得て、カリキュラムに加えるようにしている。 実習施設からも講義に来ていただき現場を意識した授業内容になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業にアンケートでは概ね教育内容に満足していたが、現場で使う看護技術(診療の補助)をもっと演習したいという意見もあったため、職場のニーズを把握し技術演習・実習前演習を実施している。 	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	<ul style="list-style-type: none"> 就職先に卒業生の勤務状況のアンケートやインタビュー、交流会等を計画する。 卒前教育を計画的に組み入れる。 専門職に必要な社会人基礎力育成に向けた取り組みを行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 適切かつ良好に反映されている 就職先との連携は大切で、OBの協力も有効だと思う。 引継ぎ実習先や病院スタッフより情報収集を行い、教育に還元してほしい。

					<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において交流会等の計画は難しい一面もあったと思われるが、今後は工夫しながら計画して頂きたい。
<p>3. 授業科目の学年進行や時間配分は適切ですか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指定規則を基本として配分できている。 ・コロナ禍でリモート授業が増えたが、昨年度の経験を活かし授業時期を調整することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一科目を複数の教員が担当することから、学習の順序性や学習効果を考えた配分を心がけている。 	<p>5 4 3 2 1 十 十 十 十 十 ← つ → 十 分 う 分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を精選し、時間割を作成する。 ・外部講師と調整し授業時期や終講試験日の調整を実施。 ・自己学習の支援方法を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切である。 ・問題ない。 ・リモート授業がスムーズにとり行われており、十分な調整が図られていると考える。
<p>4. シラバス（授業要項）を作成していますか（内容は適切ですか）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育計画に沿って、シラバスを作成している。 ・どのような学習をするのかイメージできるようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス、実習要項等を通して学生・教員に周知している。 ・年度によって変更点など確認している。 ・学内だけでなく外部教員のシラバスや講義録も電子化し、共有可能になった。 	<p>5 4 3 2 1 十 十 十 十 十 ← つ → 十 分 う 分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度新カリキュラム申請にむける「地域・在宅」「臨床判断スキル」を意識したシラバスを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切かつ良好に反映されている。 ・特に問題なく十分な取り組みができています。 ・シラバスや教材の共有や見える化は有効的で拡充すべき課題だと思う。 ・非常勤講師のシラバスが共有されたことは学生にとって有益である。

<p>5. カリキュラムの見直し体制はどのようにしていますか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末及び適宜会議にかけ。見直しを行っている。 ・新カリキュラム申請(2023年)に向けて月2回会議を開催し見直しを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業終了時及び卒業時の学生アンケートを反映させている。 ・昨年のコロナ禍の影響を踏まえ、授業・実習内容を見直すことができた。 	<p>5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学科領域が横断的に連携できるよう検討する。 ・定期的なカリキュラム会議の継続を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切かつ良好な体制がとられている。 ・特に問題なく十分な取り組みができています。
<p>6. テキストや教材をどのような基準で採用していますか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストは、科目目標や国家試験出題基準を参考に、教務会議で検討し採用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT教育を見据え電子書籍を採用したため、書き込みや検索がしやすく学習しやすい環境となった。 ・少数の学生からあまり使用しない教科書があるという意見があった。 	<p>5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床現場のイメージ化が図れる電子書籍の選定を行う。 ・ICT教育のための環境整備を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子書籍を採用することで学生のニーズに合致している。 ・学生へのiPadの普及も急務。 ・特に問題なく十分な取り組みができています。 ・教科書の選択に学生へのアンケート意見を取り入れ、検討することも手段の一つと思われる。
<p>7. 目標とする教育効果を踏まえて適切に成績評価を行っていますか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・科目の目的・目標に沿って評価している。 ・成績評価方法は学生便覧及びシラバスに明記している 	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は、科目担当が基準に則り公平に評価している。 ・成績評価の見直しをその都度行っている。 ・成績評価にかかわる問題が生じた場合や成績不良者の情報共有は、教務会議で検討し学生・保護者へ説明している。 	<p>5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特に実習評価は差異が生じない様に可視化できる評価表を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の取り組みで特に問題ないと考える。 ・適切かつ良好に行っている。 ・今後も公平に評価することを継続する。

<p>8. 学生の理解度に応じて授業を柔軟に進めていますか</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学生の理解度に応じ、授業形態は、講義・演習・実技・実習を組み入れている。学習方法は、アクティブラーニング・PBL・ディスカッション・プレゼンテーション等を実施し主体性を尊重した参加型の授業を実施している。 レポート課題などで学習の理解度を把握している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生の質問の機会を作るなど学生が積極的に授業に参加できるようにしている。 国家試験対策では特別講義とチューター性を取り入れている。 コロナ禍ではオンライン授業も多かったが、昨年の経験を活かし個別に対応できている。 	<p>5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業研究への取り組みを検討する。 1年次からチューター性を導入する。 定期的なアンケートや確認テストを行っていく 	<ul style="list-style-type: none"> 適切かつ良好に進めている。 現場に即した授業は有効的で一番大切な所なので、⑤を目指して頑張ってもらいたい。 チューター制はよいと感じるがチューターに向いている学生と向いていない学生がいるため、運用方法の検討が必要。 現在の取り組みで特に問題ないと考える。
<p>9. 学生の学力不足を補うための教育をとくに実施していますか</p>	<ul style="list-style-type: none"> 長期休暇には学習課題を確認し低学力者には面談を行っている。 低学力者にはランチョンセミナー等を開催している。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年次は学習対策委員会を中心に主体的学習の実施、2年次はチューター性を活用し国家試験対策を個別指導している。 成績不良者に対し担任・教務主任を中心に面談を実施し学習方法の指導を行い成績アップにつなげている。 	<p>5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分</p>	<ul style="list-style-type: none"> 入学直後から低学力者に対し、学習方法の指導を徹底していく。 教員同士で情報共有を行い、教員全員が連携しながらのサポート体制を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> 適切かつ良好に指導している。 入学時の早い段階から現場見学実習等の意識付けが重要だ。 引続き学力不足者には手厚く対応すること。 学力不足による退学者数や国家試験合格率へは

					どのように反映されているか。 ・コロナ禍でのランチョンセミナーは感染対策の考慮を要する。				
10. マナー（喫煙指導などを含む）やしつけの教育や指導を行っていますか	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職業人としてふさわしい品性を備えられるよう随時指導している。 ・学生の自尊心の尊重を基本理念としている。 ・校内禁煙 	<ul style="list-style-type: none"> ・便覧に則りながら教務会議で協議し共通認識をもち随時指導している。 ・なぜ必要なのかとわかるよう説明している。 ・年齢層が幅広いため、学生を尊重しながら指導を行っている。 ・特に実習中には患者関係を通して指導することで身についている。 	5 十 分	4 ← つ う	3 ふ う	2 →	1 不 十 分	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員全員で意思統一を図り、指導を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染症に対する配慮も必要で、学習面だけでなく生活健康精神面への支援、指導はどうしているか。 ・適切かつ良好な指導を行っている。 ・問題ない。
11. 教育技術（教育方法）の研修・研究を実施していますか	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の質向上の目的で、個々のニーズに合わせた研修や講習会が2回/年参加可能である。 ・伝達講習を義務化している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ではあったが、オンラインの研修会には参加できた。 ・クラス担任は、クラス運営の調整が難しく研修機会に制約がある。 ・研究授業の調整が難しい。 	5 十 分	4 ← つ う	3 ふ う	2 →	1 不 十 分	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も教員全員が年2回以上の研修・研究会に参加する ・研修参加が可能となるよう業務調整を行う。 ・外部講師の授業や他校の授業なども見学できる機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な研修・研究を行っている。 ・研究授業ではなく簡易な授業公開・見学から実施しては如何か。 ・今後も教員キャリアに合わせた臨床研修の実施/計画を、研修後の報告会/学習会を実施できる体制環境の整備を行う。

<p>12. 学生による授業評価を実施し教育改善に反映していますか</p>	<ul style="list-style-type: none"> 科目終了後に授業アンケートを実施している。集計後は教員にフィードバックしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートを実施することで、教員の課題が明確になり、授業改善に反映できている。 実習終了時のアンケートが統一して行えていない現状である。 	<p>5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分</p>	<ul style="list-style-type: none"> 講義アンケートは継続するが、調査の時期を検討する。 実習のアンケートについて検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 適切かつ良好に反映している。 改革に向けて取り組むため、調査の時期は年度途中が適している。 非常勤講師にもアンケートのフィードバックを行うこと。
---------------------------------------	--	---	---	--	--

2 施設・設備

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	学校関係者評価
<p>1. 教室の数や広さ、付帯設備は適切ですか</p>	<ul style="list-style-type: none"> 指定規則に準じ人数に見合った、教室や付帯設備である。 	<ul style="list-style-type: none"> A V機器、エアコン等は、徐々に最新のものを設置している。 グループワークや面談に使用できる場所が少ない。 	<p>5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分</p>	<ul style="list-style-type: none"> 校舎、付帯設備に問題が生じた場合は、即対応していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 適切である。 問題ない。 即対応が問題の発生を防ぐことになる。
<p>2. 図書室を設け蔵書を適切に揃えていますか(有効に活用されていますか)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 指定規則に準じた蔵書・教材を購入している。 司書が毎日開室・定期的に蔵書点検を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 書籍の整理はできており、検索システムがある。 学生が実習や看護研究を行っていくうえでの貸出可能な文献が少なく年数が経過している。 司書が兼務であるため、決められた時間以外の図書室開室に制約がある。 	<p>5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分</p>	<ul style="list-style-type: none"> 最新の図書を増やす。 学生のニーズに合わせた開室、使用方法を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 適切である。 図書だけではなくデジタルツールとの併用を意識して展開することも必要。 定期的に新刊図書が購入できるシステムが望まれる。

					・図書館利用に対する学生のニーズにはどのような意見があるか 図書室を活発に利用できることが理想である。
3. 実習・実験室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	<ul style="list-style-type: none"> 指定規則に準じている。 学生の人数に十分対応できる実習室の広さや個数は確保されている。 	<ul style="list-style-type: none"> モデル人形を購入・レンタルすることで、学内実習や卒業前技術演習に取り組むことができた。 備品の取扱いを通し物品の手入れや大切に扱うことが学べている。 ベッドが古くなっている。 付帯設備を関連校から借用し技術演習の充実を図っている。 	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	<ul style="list-style-type: none"> 設備や備品のリストアップ リスクマネジメントからの購入計画の検討をする。 定期点検とともに、授業終了時後はその都度点検を行う。 破損・汚染時は迅速に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 適切かつ良好である。 ベッドなどが老朽化して危険ということか。 卒後の職場環境も踏まえ、設備は最新のものも必要と考える。
4. 最新機能を備えた視聴覚機器や情報機器は足りていますか（有効に活用していますか）	<ul style="list-style-type: none"> リモート学習ができるよう Wi-Fi 環境の整備やパソコンを購入した。 情報科学の授業で情報機器は、関連施設のものを使用している。 	<ul style="list-style-type: none"> Wi-Fi 環境を整えたが、パソコンの台数が不足している。 関連施設まで移動に時間がかかる。 視聴覚機器、PCソフトが古い 	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	<ul style="list-style-type: none"> 学生が使用できる PC の設置ソフトの更新などセキュリティ対策を行う。 卒業前演習でも臨地に対応できるような備品の充実が必要。 機器は丁寧に扱い、支障をきたした場合は迅速に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 適切である。 学生への iPad が不可欠になってくると思われる。100%デジタル世代の登場である。 卒後は電子カルテを使用することが多く、研究等でも PC 利用頻度が増える為、十分な使用経験が

					望まれる。 ・ICTを活用し、時代の流れに沿った看護師養成には大変重要である。積極的に活用することをすすめて頂きたい。
5. ニーズに応じた学生寮を保有していますか(有効に活用されていますか)	<ul style="list-style-type: none"> ・徒歩圏内に寮母が在住する女子寮(個室)を保有している。 ・寮母と学校との連絡は図れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・築2年の綺麗な施設で、学習環境に恵まれている。 ・Wi-Fi環境が整っている。 	5 <input checked="" type="checkbox"/> 4 3 2 1 十 分 ← つ → 十 分 ふ う	<ul style="list-style-type: none"> ・学生のニーズに合わせて有効に活用していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題ない。 ・よい環境が整っている。 ・女子寮を有効活用している。 ・学生のニーズの対応とともに運営の規則も明確に継続することも大切だと思う。
6. 体育館や運動場などを保有していますか(有効に活用されていますか)	<ul style="list-style-type: none"> ・関連施設の体育館を使用している。 ・式典・サークル活動や地域住民にも開放している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、感染防止の観点から授業以外での体育館使用は中止している。 	5 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 2 1 十 分 ← つ → 十 分 ふ う	<ul style="list-style-type: none"> ・授業後は感染管理を含めた管理を徹底指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切である。 ・問題ない。

3 学生サービス

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	学校関係者評価
1. クラス担任制をとり修学に問題のある学生に対して適切な対応を行っていますか	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任を中心として役割別担当も機能させながら、学生に対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教務会議で学生の状況報告を行い、教員全体で学生支援にあっている。 ・学生の抱える問題も多様化し担任に負担が偏っている。 	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	<ul style="list-style-type: none"> ・担任に負担が偏らないよう、1年次からのチューター制の導入なども検討。 ・必要に応じて支援体制を整えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切かつ良好に対応できている。 ・卒業時の進路、就職先も重要だが、入学時又入学前の意識付けも重要である。 ・教員の負担が大きくなるよう検討する必要がある。 ・十分な対応がされている。
2. 学生に対してカウンセリング(心理相談)を行っていますか	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家が定期的に来校し、希望する学生にカウンセリングを行っている。 ・教員とカウンセラーも連携を取りながらフォローしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個室で実施しプライバシーは遵守されている ・教員は、傾聴、受容、共感的な対応で支援している。 	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家との連携の強化を図る。 ・教員に対する心理相談の教育プログラムを検討する。 ・心理相談が受けやすい環境を調整する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切かつ良好に行えている。 ・十分な対応がされていると考える。 ・問題ない。
3. 教室以外に休憩スペースが適当に置かれていますか	<ul style="list-style-type: none"> ・2階にロビー、3階に更衣室・多目的室があり、語り合いや休憩場所として活用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のため施設の仕切りを工夫し、多目的室、カンファレンス室を設けた。 ・ロビーや更衣室に休憩スペースがあるが空調設備がない。 	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	<ul style="list-style-type: none"> ・ロビー・更衣室の環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切に配置されている。 ・快適な環境となるよう検討が必要である。

<p>4. 食事場所や売店などのスペースが設けられていますか</p>	<p>・売店はないが、学校が選定した弁当業者を学生は活用している。</p>	<p>・弁当業者の利用者数は多い。 ・教室以外に多目的室も使用し食事スペースを確保した。 ・食事中は衝立としてアクリル板を使用し会話による飛散を防いだ。教員はパトロールを実施している。</p>	<p>5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分</p>	<p>・食事時の換気の徹底、パトロールの継続を行う。 ・清掃を徹底する。</p>	<p>・食事スペースは適切に確保されている。食堂はないが、弁当業者の利用にて問題はない。 ・パトロールに対して、学生たちは監視されている意識を持つことはないか。 ・「黙食」のポスター掲示も有効的。</p>
<p>5. 学校独自に奨学金や特待生制度を行っていますか</p>	<p>・関連医療施設に奨学金制度があり、就職も可能である。</p>	<p>・学校見学会や入学時に奨学金制度について説明を行っている。</p>	<p>5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分</p>	<p>・学校見学会などで、奨学金制度の説明を継続する。 ・特待生制度の検討が必要である。</p>	<p>・適切に行えている。 ・特待生制度は継続して検討していく必要がある。</p>
<p>6. その他</p>	<p>スクールバスの運行を行っている。</p>	<p>・凡そスクールバス乗車を希望している学生は、乗車できている。</p>	<p>5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分</p>	<p>スクールバスの運行の続行。</p>	<p>・スクールバスの運行は、利便性が高い。</p>

4 教育面などでの特筆すべき取り組み(自由記入)

※学内においてこれまで記入したこと以外に、教育、施設・設備、学生サービス面での特筆すべき取り組みがあれば記入ください。

- ・ 国家試験対策のチューター制に加え、さらなる強化を図るために、直前には担任以外にも担当者を置き指導にあたった。看護師国家試験合格率は100%であった。
- ・ 新カリキュラムに向けて教育体制の検討に全員で取り組んでいる。
- ・ 関連校との協力体制をとり、学生教育の充実を図っている。
- ・ 感染状況がおさまればボランティア活動をはじめ地域との交流、連携を深めていく。
- ・ 授業は対面及びオンラインのハイブリッド方法を導入し充実を図っていく。
- ・ 令和4年よりモバイルデバイスを管理し、学習環境の調整を図っていく。
- ・ 平成31年4月より厚生労働大臣が指定する「専門実践教育訓練給付制度指定講座」に認定された。また令和2年4月には、高等教育の修学支援新制度の対象機関となった。学生の経済支援サービスのため、今後も認可が継続できるよう学校を上げ学習支援に取り組んでいく。

※学校関係者評価

- ・ 今後もコロナウイルス感染拡大の可能性が懸念されますので、それに応じたシラバス作りが必要になります。また記載されているとおり、感染拡大を考慮した授業のハイブリッド方法の導入やモバイルデバイスの活用等を全教員が理解・把握し、しっかりと運用していく必要があると思います。
- ・ 次年度から新たなカリキュラムになるということで、より地域に向けて知識を広げるプログラムや実習の導入が必要とされています。日頃からのボランティア活動、社会の動きを知り、幅広い人間性・看護力を身につけてほしいです。
- ・ 生徒募集の観点から教育内容の充実以外にどのような取り組みが必要か検討精査することの意識が大切だと思います。
- ・ 栗岡学園のグループ校全体で共通している課題があり(設備の更新や学生対応の個別化など)、本部でプロジェクトチームをつくり全体で対応を考えていくことも必要ではないか。限られた予算と人員の中で最大の効果をあげるためにもグループ全体で取組むことと、各校で取組むことをわけて対応した方がよいと感じた。